——天神小学校建設に伴う
埋蔵文化財確認調査概報——

後閑遺跡

昭和57年度

前橋市教育委員会

序

前橋市における学齢児童の数は，一部の地区を除き，特に郊外において，増加する傾向が見られます。市の南東部に位置する広瀬，朝倉地区は，人口の増加が急で，かねてより小学校建設が望まれ，市としても，後閑町に58年4月開校を目指して計画を進めて参りました。しかし，周知のように同地区は，八幡山古墳（国指定史跡），天神山古墳（県指定史跡），亀塚山古墳（市指定史跡），金冠塚古墳，文珠山古墳等に代表される，市内でも有数の古墳群地帯であります。学校建設に当たっても，文化財保護の立場は尊重されねばなりません。今回は学校建設に先立ち，校舎建設予定地部分の確認調査を実施し，同地区における埋蔵文化財の有無を検討しました。ここに，その成果の一端を報告致します。

本調査を実施するに当たり，終始ご協力くださった朝倉小学校関係者，朝倉児童館の方々，公園緑地課，土木課の方々，及び炎暑の中で，直接調査に携わってくださった作業員の方々に対して，厚くお礼を申し上げます。

本報告書が斯学の発展と地域の歴史解明に，少しでも寄与する所があれば幸甚であります。

昭和58年3月31日

前橋市教育委員会

教育長　金井博之

例　　言

1. 本報告書は，前橋市立天神小学校建設に伴い，事前確認調査した後閑遺跡の調査概報である。
2. 調査主体は，前橋市教育委員会である。
3. 確認調査の要項

   調査場所　前橋市後閑町50番地の1　他25筆　全体規模29,816㎡のうち，当面の調査面積は，1,940㎡である。

   調査期間　昭和57年6月14日～昭和57年8月3日

   調査担当者　福田　紀雄，木部目出雄，鵜木　晋一，町田　信之
4. 本書の編集・執筆は，鵜木晋一が担当した。
5. 確認調査に参加した方々は，次の通りである。

   天田　玄市，石川タカヨ，石井喜久江，遠藤キヌ江，金子　栄一，川和生目子，木島　茂雄
   後藤　照子，七五三木花江，関根さち子，関根　辰雄，武井美枝子，立川志保子，出沢トシ子
   橋本　光子，三田アサ子，三田　貞三，矢端美津子
6. 調査期間中は，地元の方々をはじめ，多くの方々の協力を頂いた。特に調査事務所設置に際しては，朝倉小学校校庭の一部を借用させて頂いた。又，調査期間中，電話等の借用で，朝倉児童館の方々には大変お世話になった。記して深謝する次第である。

目　　次

序　文

Ⅰ　確認調査に至るまでの経緯……1

Ⅱ　遺跡の位置と環境……1

Ⅲ　確認調査の経過と概要……6

Ⅳ　基本土層……6

Ⅴ　トレンチ調査……6

Ⅵ　結語……8

Ⅰ　確認調査に至るまでの経緯

前橋市立天神小学校建設事業に伴う，建設地内の埋蔵文化財の確認調査に至るまでの事前の調整，協議の経緯及び結果の概要は，以下のようである。

昭和53年11月	天川小学校及び朝倉小学校の児童数の過密化の解消を目的として，新総合整備計画（昭和53年～62年度）に基づき，新設校の設置を計画し，市長あてに建設用地の取得申し出を行う。
昭和53年11月～56年６月	就学区域等の関係から，地元との調整を行い，予定地を検討する。
昭和56年６月	現在地に校舎建設が決定する。（前橋市後閑町50番地の１他）
昭和56年８月	教育委員会事務局担当課間での協議により，遺構の確認調査を実施することになった。
昭和57年１月	文化庁に対し，補助金申請をし，確認調査を行うことになった。
昭和57年５月	教育委員会事務局担当課間で，確認調査の実施時期，期間等の最終的な打合せを行った。

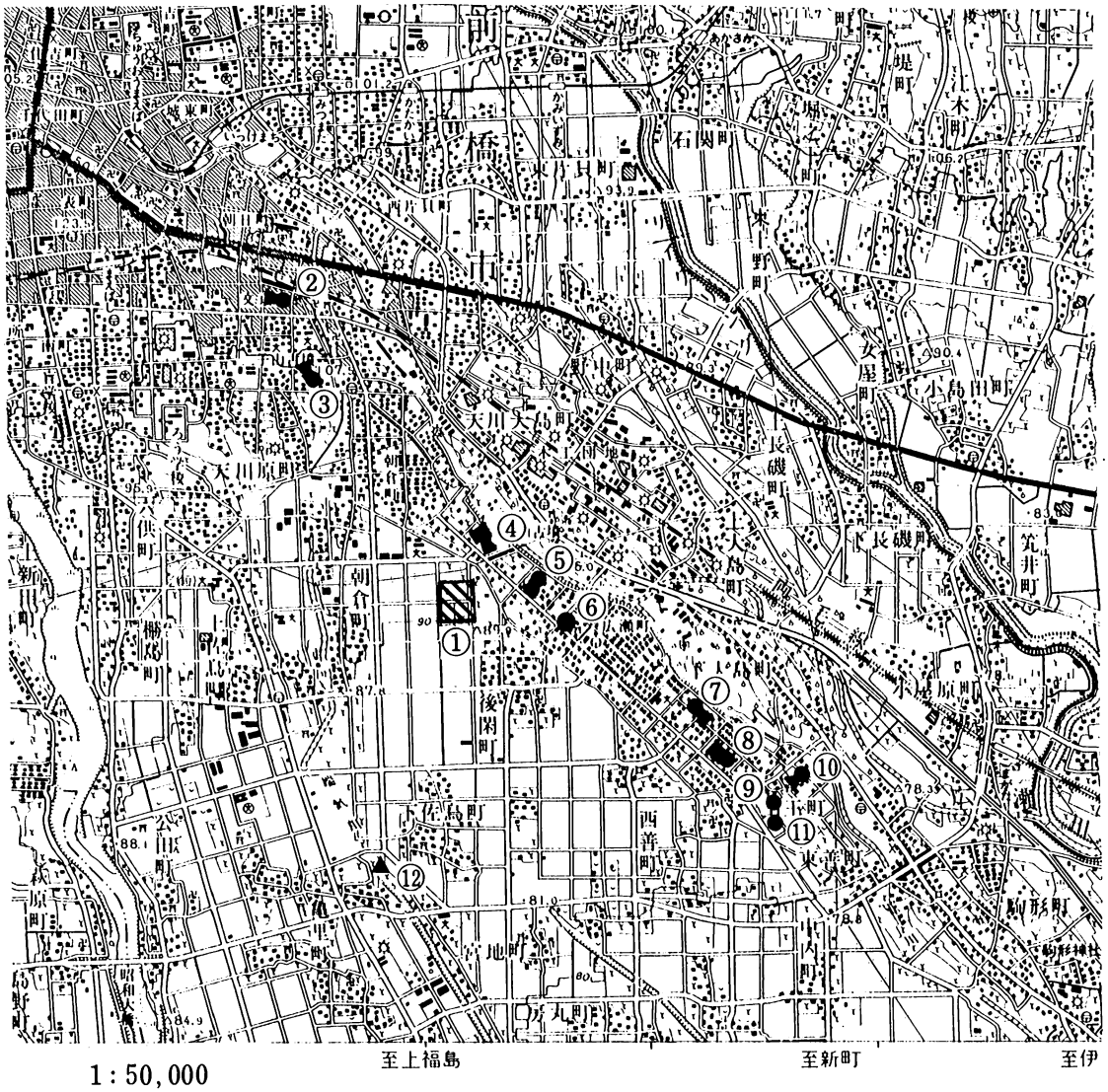
Ⅱ　遺跡の位置と環境

後閑遺跡は，前橋市後閑町50番地の１他にある。当所は確認調査時までは，水田・畑地・桑畑となっていた。当地は，市の北西部から南東部へ帯状に伸びる『広瀬川低地帯』（約2.3～３㎞の幅を持つ）と，それより一段高く高台をなす『前橋台地』（洪積層より成る）の接点ともいうべき所である。この地域は，かつて南東流する利根川の流路に当たっていた。利根の流れは，赤城山麓寄りの所から，その下方浸食と同時に，徐々に南西側の前橋泥流堆積物を削って川幅を拡大し，台地の崖下に向かって移動し，現在の広瀬川低地帯を造り上げた。現在の広瀬川は，その最終河道に当たっている。利根川が流路を現在のように変えたのは，応永年間（1394～1427）から天文８年（1539），及び天文12年（1543）の大洪水によるものとされている。

また市街地より後閑町，山王町，東善町に至る崖上には，自然堤防状の砂堆地形があり，利根川沿いには，天明年間の浅間山の噴火物と思われる火山岩屑が台地面上にあり，これも自然堤防状の地形を形成している。なお藤川，端気川など台地を南流する小河川沿いには浅い浸食谷も見られる。当地はこのような構造を持つ，前橋台地上の東端，広瀬川低地帯に隣接する所に位置している。

次に，本調査地周辺に存在する各歴史的文化財を概観し，同地の歴史的環境について考えてみたい。同地は，昭和29年からの町村合併によって，前橋市に編入された，『上川淵村』に属する。現在までのところ，同地区内では先土器時代，縄文時代の遺跡は確たる出現を見ない。

弥生時代に関しては，後閑町の広瀬団地付近で，宅地造成中に『樽式土器』の甕棺の出土を見た。甕棺は，身と蓋とから成っており，身の頸部に波状の櫛目文が施されている。出土状態は不明



1：50,000

1000m　0　1000　2000　3000

① 後閑遺跡　② 不二山古墳　③ 天川二子山古墳

④ 八幡山古墳　⑤ 天神山古墳　⑥ 飯玉神社古墳

⑦ 亀塚山古墳　⑧ 金冠塚古墳　⑨ 文珠山古墳

⑩ 上陽12号墳　⑪ 阿弥陀山古墳　⑫ 川曲遺跡

遺跡位置図

であるが，弥生式土器の最末期に位置するものと思われる。この種の土器は利根川右岸の山間地に出土例が多く，赤城山南麓以東での発見例は甚だ少ない。同町付近からは他にも石田川式土器が出土している。

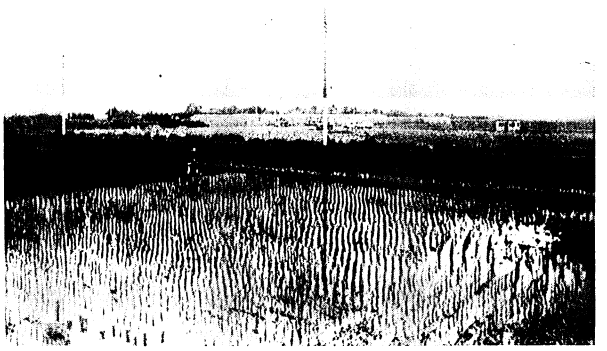
同地はかつて，市内でも有数の古墳群地帯であった。広瀬川の右岸の低い崖の上には，旧市域から旧上陽村の東善にかけて，約5.5㎞にわたり，幅約70㎡の帯状に連なる古墳群が存在した。昭和10年の県下古墳一斉調査では，前橋市15基，旧上川淵村113基，旧上陽村41基を数えた。しかし，戦前，戦中，戦後の開墾や，昭和30年以降顕著になった宅地造成事業等により，大半は未調査のまま平夷されてしまった。現在，八幡山古墳（国指定史跡），後閑天神山古墳（県指定史跡），亀塚山古墳（市指定史跡），金冠塚古墳，文珠山古墳等に，当時の古墳群の片鱗を窺うことが出来る。

後閑天神山古墳は，古式の前方後円墳の様相を示すものである。墳丘の全長129㎡，後円部径75㎡，前方部幅68㎡，くびれ部幅45㎡，後円部高さ9㎡，前方部高さ7㎡の長大なものである。墳丘は三段に築かれ，墳頂には直径約25㎡にわたって石敷きが施され，赤色顔料を塗った石田川式土器が配置されていた。底部に穿孔のある，複口縁の壺型土器である。その配置は，奈良県桜井市の茶臼山古墳のものに類似し，埴輪円筒列の起源を思わせる。埋葬施設はその内法長辺7.8㎡，短辺1.4㎡，高さ1㎡前後の巨大な粘土槨である。銅鏡，銅鏃，太刀，碧玉製紡錘車，靫等の副葬品が発見された。又，墳丘の基底部には浅間山噴出（1世紀乃至5世紀）によるC軽石層が検出され，同古墳の築造年代は4世紀初頭と考えられる。以上のことから推して，同古墳は関東地方における最古の前方後円墳とされている。※注

八幡山古墳は，墳丘の形が前方後方墳という，全国でも数少ないものの一つであり，その大きさにおいては全国一と言われる。竪穴式石室を持つと思われ，玉石敷きの部分や粘土を詰めた箇所も存し，出土品もあったと伝えられるが，はっきりしたことは不明で，未調査のままである。

金冠塚古墳は，天神山古墳の南東約1.9㎞の所に位置する，横穴式石室をもった前方後円墳である。朝鮮慶州の王冠塚から出土した冠と酷似したものが発見され，かねてより注目されていた。昭和56年度の環境整備事業に伴い，前橋市教育委員会が発掘調査を行った。

本古墳群を構築上からみた場合，主体部に『角閃石安山岩』を加工して使用しているものを指摘することが出来る。この石材は，尾崎喜左雄氏が『浮石質紡錘状角閃石安山岩』と称したものであり，榛名山の二ツ岳の噴火に伴う噴出物である。紡錘状で，浮石質であるため，石質は軟かく，加工しやすい。この石材使用の石室を持つ古墳は，前橋市から埼玉県にかけての，旧利根川流域に沿って分布しており，噴出後，利根川によって運搬されたものを使用した可能性が強い。地質学等の研究によると，二ツ岳の噴火は，6世紀半過ぎと推定されるため，角閃

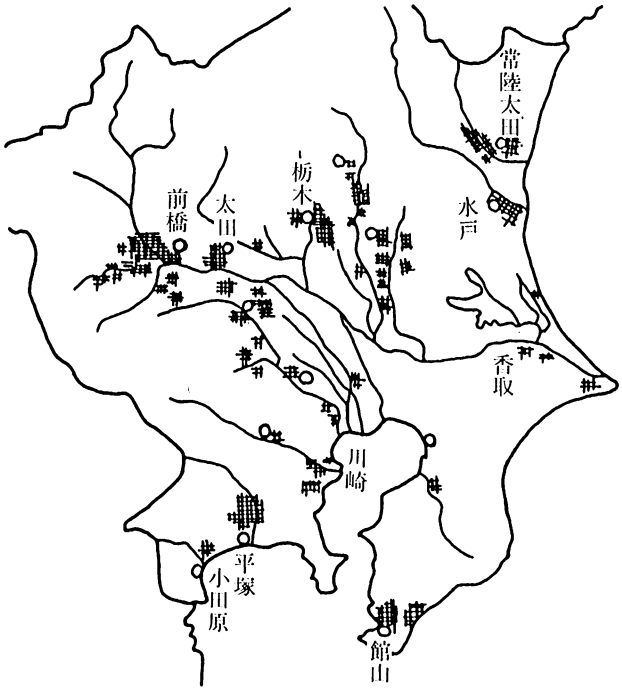


調査地遠景

石安山岩使用の石室を持つ古墳は，研究上の一大メルクマールとなっている。同地においても，その例を挙げることが出来る。

不二山古墳（前方後円墳，文京町三丁目），山王大塚古墳（円墳，山王町，消滅），上陽第10号古墳（山王町，消滅），朝倉Ⅰ号古墳（円墳，朝倉町，消滅），朝倉Ⅱ号古墳（円墳，朝倉町，消滅），朝倉Ⅲ号古墳（朝倉町，消滅），金冠塚古墳（前述），文珠山古墳（円墳，山王町），狐塚古墳（円墳，山王町）等である。

このような夥しい古墳の存在は，必然的に有力な豪族と，それを支えた民の存在を連想させるであろう。承平年中（931～938），源順によって編纂された『倭名類聚抄』の上野国の郡郷の部に，『朝倉』の名が見える。なお，大化改新時の東国の国司決定の際，交渉に当たった者として，『朝倉君』がいるが，これが朝倉の地に関係すると思われる。上毛野国を支配した上毛野君は，各地に一族を配したが，朝倉君も，おそらく一族の一人であり，同地を領したのであろう。『日本書紀』大化２年の記事には，国司に対して，弓，刀，布等を提供し，その財力の一端を窺わせる箇所が見られ，『続日本紀』延暦６年12月の条には，朝倉公家長が陸奥に軍粮を送るとある。同地から北西約３*km*に位置する六供町の旧字名には，京安寺，北大門，南大門，堂木等寺院の存在を思わせるものが散見され，朝倉氏の氏寺としての意味を持つものと推測出来る。以上述べ来ったところからしても，この地は上毛野君の一族である朝倉君の一党が本拠とした所であり，その関係者が多くの古墳を築造し，古墳文化の華を咲かせたものであろう。しかし，当地においては，それを決定づける発掘調査の事例は，誠に少ない。古墳の調査にしても，平夷される寸前の緊急の場合がほとんどであり，まして，住居跡等の調査は皆無に等しかった。そのような状況下で，昭和57年１月から３月にかけて実施された『川曲遺跡』発掘調査は，注目すべきものと言えよう。当調査は，端気川の河川改修に伴い，群馬県教育委員会が担当した。遺跡は下佐鳥町にあり，端気川の東岸に位置していた。検出された一軒の住居跡は，北西部分が柱穴部まで，河川の浸食を受けて崩壊していたが，規模，竈，貯蔵穴，柱穴の構造及び出土遺物の特徴から考え



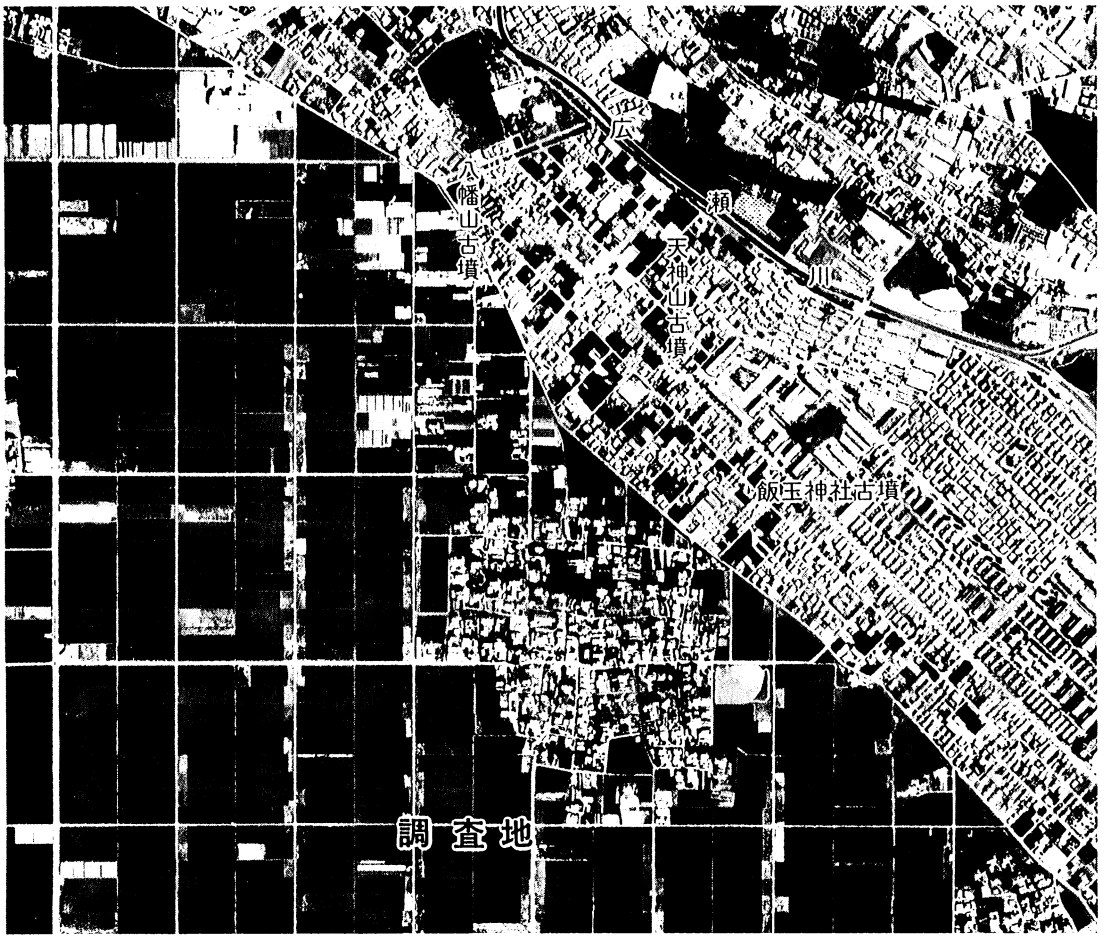
関東地方の条里分布（三友国五郎氏による）
—「歴史がつくった景観」より

関東地方の条里分布

て，古墳時代中期（鬼高期）のものであると考えられる。

次に，『条里制』遺構の問題を検討したい。周知の如く，条里制は研究者によって，概念規定はまちまちであるが，古代国家のもとにおける基本的な土地区画であり，班田収授法を容易かつ円滑ならしめるために設けられたものであることは，論をまたない。条里地割の遺構は，畿内及びその周辺を中心にして，ほぼ全国にわたっている。関東地方においても，条里に対する関心は，すでに大正期から見られたが，戦後，昭和30年代より，地理学者によって，詳細な研究が行われるようになった。前橋市においても，旧上川淵村，下川淵村，元総社の各地区に，その痕跡を認めることが出来る。本調査地を含む旧上川淵村内にも，地割が比較的整然と残っている。地名にも，『上両家』，『下両家』（「領家」の転か？），『後閑』（「空閑地」の転か？）等があり，古代の土地制度の名残を思わせる。又，明治34年，前橋市へ編入された大字の一つに，『市之坪』がある。ここは上野国府推定地の東南の里でもあり，条里制施行の際に付与された，序数の『一ノ坪』であろうと考えられる。このように本確認調査地は，墓域（古墳群）と，条里集落の中間の場所として，居住空間が予想されるのである。

※注『前橋市史』第1巻（1971年）



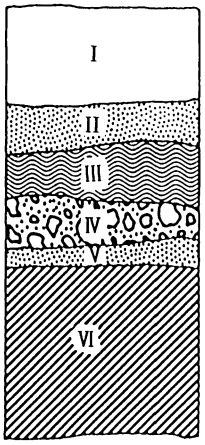
調査地周辺の航空写真

Ⅲ　確認調査の経過と概要

確認調査の前段階として，昭和57年５月23日，調査区域のマッピングを行った。６月14日，調査区域の杭打ちを行い，範囲を確認した。６月16日より試掘を開始した。調査区域は，７頁の図に見られるように，A，B，C，D区とした。A，B区は道路の西側半分を占め，水田・畑地となっていた部分であるが，遺物の散布は見られなかった。東側部分のC，D区は桑畑として利用されており，少数の土師器片，須恵器片の散布が見られた。調査方法は各区ごとにトレンチを設定し，遺構が確認され次第，順次拡張する方法をとった。

Ⅳ　基本土層

本遺跡地の標準層位は，以下のようであった。



Ⅰ層　表土。黒褐色を帯びた耕作土。ややしまりがある。約30cm。

Ⅱ層　砂質性黒灰色土。多量のB軽石が混じる。所々，鉄分の凝縮と思われる茶褐色土粒を含む。約12cm～17cm。

Ⅲ層　粘性を帯びた黒褐色土。やわらかい。約10cm～20cm。

Ⅳ層　粘性を帯びた茶褐色土。やわらかい。少量のC軽石を含む。所々，黄褐色土粒を含む。約５cm～20cm。

Ⅴ層　砂質性黒褐色土。少量のC軽石を含む。約４cm～９cm。

Ⅵ層　粘性を帯びた黄褐色土。多量のローム粒，少量のC軽石を含む。約50cm～55cm。

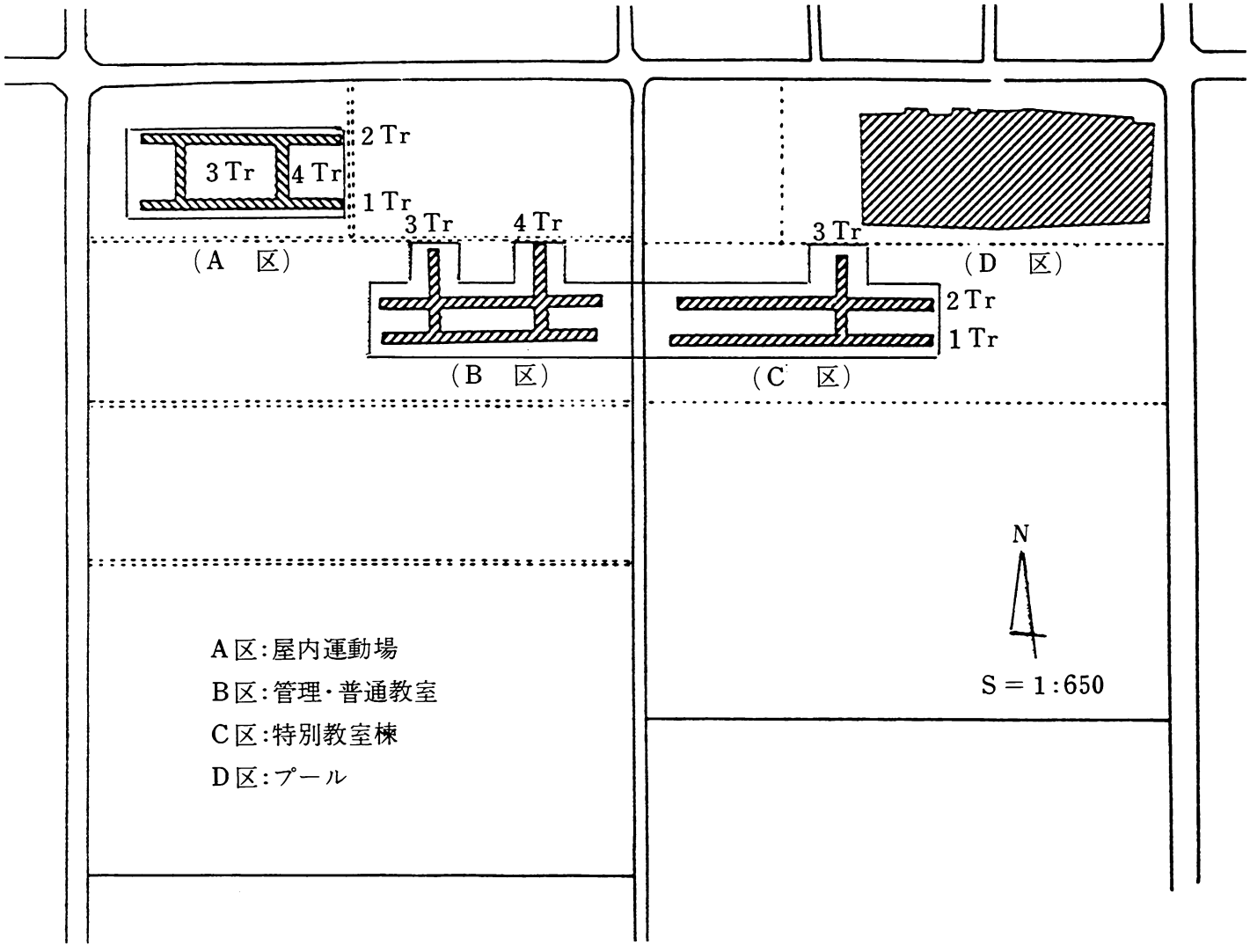
Ⅴ　トレンチ調査の概要

○A区　幅２mトレンチを 工 型に設定した。地表から約32cmの所にB軽石層が確認された。湧水のため，排水と併行して，同地層面を精査し，遺構の検出を試みた。

○B区　幅２mトレンチを 土 型に設定した。地表から約48cmの面で，B軽石層が確認された。A区同様，湧水が甚しいため，排水作業と併行して，同地層面を精査し，遺構の検出を試みた。

○C区　幅２mトレンチを 土 型に設定した。地表から約24cmの面で，B軽石層を確認した。約80cmの深さで，ロームの層に達した。A，B区同様，水の出が激しかった。西側部分に黒色を帯びた土壌の広がりがあり，その部分約150m²にわたって土を排除し，遺構の検出を試みた。

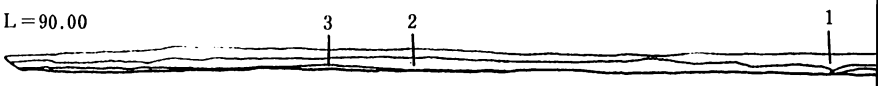
○D区　遺構の存在が最も強く予想される箇所のため，全面的に掘り広げた。地表から約52cmの面で，B軽石層を確認した。約1.2mの深さで全面にわたり，大粒で，多量のC軽石を含むローム面に達した。



調査地及びトレンチ位置図

A　区

〔東西地層断面図・第２トレンチ〕

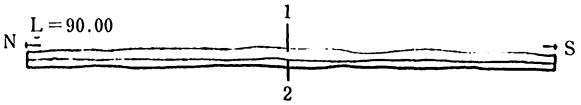


１．茶褐色土．耕作土、やわらかい。

２．茶褐色土．所々に明茶褐色の塊(鉄分の凝集したものか)を含む、砂質を帯びるが、ややしまりがある。

３．黒褐色土．多量のＢ軽石を含む、少量のＣ軽石を含む、所々に茶褐色の塊(鉄分の凝集したものか)を含む、砂質。

〔南北地層断面図・第３トレンチ〕

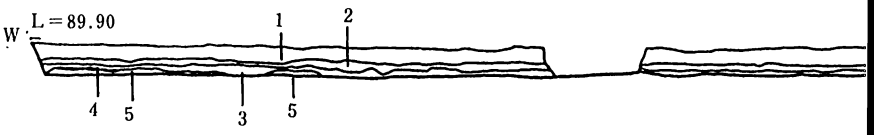


１．茶褐色土．やわらか

２．黒灰色土．多量のＢ
砂質である

B　区

〔東西地層断面図・第１トレンチ〕



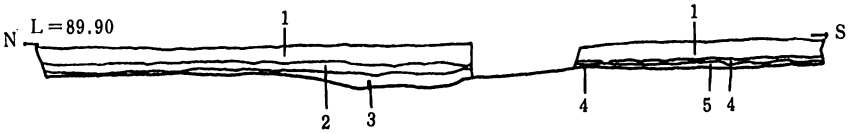
１．茶褐色土．耕作土。

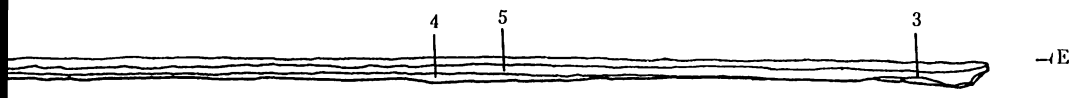
２．黒灰色土．柔らかく、やや粘性を帯びる。

３．茶褐色土．柔らかく、やや砂質を帯びる。

４．黒褐色土．砂質、かたく、しまっている。

〔南北地層断面図・第３トレンチ〕

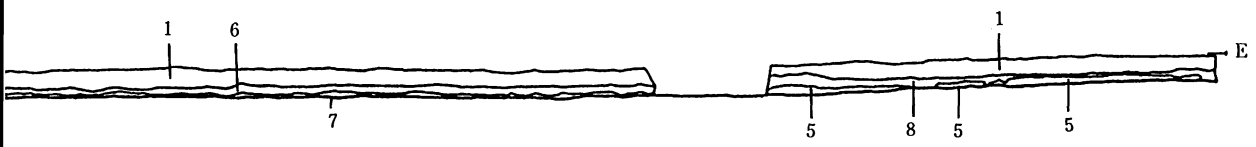




4．茶灰色土．少量のC軽石、ローム粒を含む、所々に茶褐色土粒(鉄分の凝集か)が見られる、砂質を帯びるが、やや粘性を帯びた部分も見られる。

5．黒灰色土．所々に茶褐色土粒(鉄分の凝集か)を含む、砂質であるが、やや粘性を帯びた部分も見られる。

含む、明褐色土粒(鉄分の凝集か)
、やや粘性を帯びた部分も見られる。



5．黒灰色土．多量のB軽石を含む、砂質。

6．黒褐色土．少量のB軽石を含む、所々に塊状の茶褐色土粒(鉄分の凝集したものか)を含む、砂質。

7．黒灰色土．多量のB軽石を含む、所々に茶褐色土粒(鉄分の凝集したものか)を含む、砂質。

8．黒褐色土．少量のB軽石を含む、所々に黄褐色土粒が見られる、砂質。

5．黒灰色土．多量のB軽石を含む、所々に茶褐色、土粒が見られる、砂質。

1．茶褐色土．耕作土。

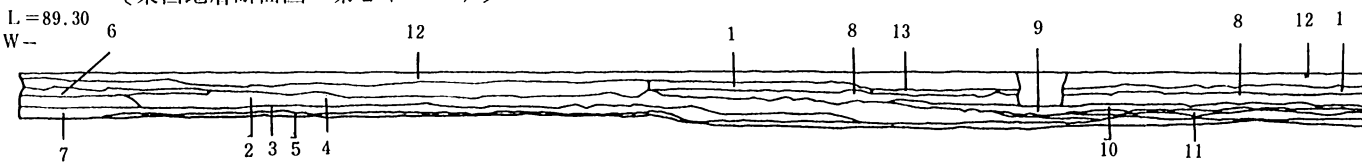
2．茶褐色土．やや砂質。

3．黒灰色土．粘性を帯びろ。

4．茶褐色土．砂質。

C　区

〔東西地層断面図・第２トレンチ〕



1．黒灰色土．多量のＢお含む、少量のＣ軽石、茶褐色土粒を含む、砂質。

2．褐　色　土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石、黄褐色土粒を含む、やや砂質。

3．黒褐色土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石、灰色土粒、茶褐色土粒を含む、やや粘性を帯びる。

4．黒褐色土．少量のＣ軽石、茶褐色土粒を含む、やや粘性を帯びる、３より明るい色。

5．茶褐色土．多量のローム粒を含む、少量のＣ軽石を含む、全体的に砂質であるが、所々に粘性を帯びた部分がある。

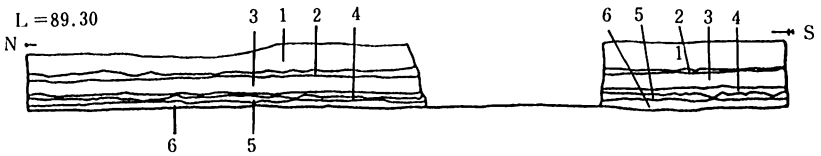
6．褐　色　土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石、Ｂ軽石を含む、砂質を帯びる。

7．黒褐色土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石を含む、やや砂質を帯びるが、所々
粘性を帯びた部分もある。

8．褐　色　土．多量のＣ軽石を含む、少量のＦ軽石、茶褐色土粒を含む、
砂質を帯びるが、部分的に粘性の箇所も見られる。

9．茶褐色土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石を含む、しまりのある土層である。

〔南北地層断面図・第３トレンチ〕



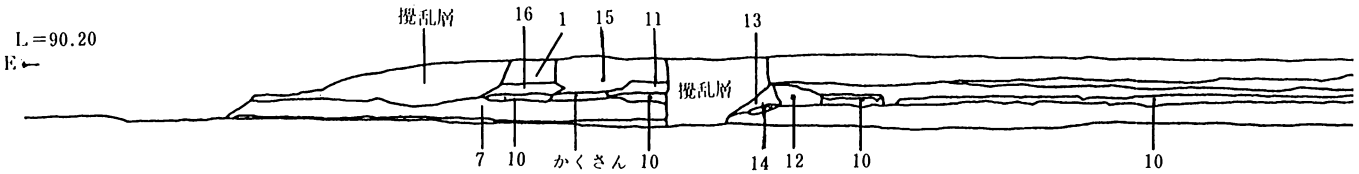
1．茶褐色土．少量のＣ軽石、Ｆ軽石を含む、全面的に黄褐色土粒(
する、砂質。

2．黒灰色土．多量のＢ軽石を含む、少量のＣ軽石、Ｆ軽石を含む、
(鉄分の凝集か)を含む、砂質

3．褐　色　土．多量のＣ軽石、Ｆ軽石を含む、少量の茶褐色土粒(
を含む、やや粘性を帯びる。

D　区

〔東西地層断面図〕



1．茶褐色土．少量のＣ軽石、ローム粒、黒色土粒を含む、ややしまりがある。

2．茶褐色土．少量のＣ軽石を含む、全面的に、鉄分が凝集したと見られる明褐色土粒が点在する、砂質。

3．黒灰色土．多量のＢ軽石を含む、明褐色土粒(鉄分の凝集か)を含む、砂質。

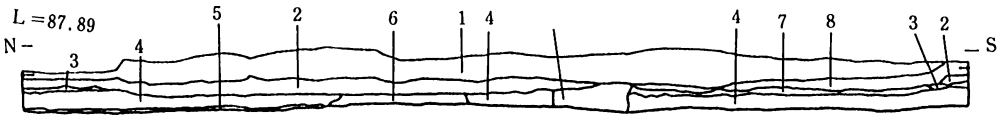
4．黒褐色土．少量のＣ軽石を含む、やや粘性を帯びる。

5．黒褐色土．多量のＣ軽石を含む、少量のＦ軽石を、
やや粘性を帯びる、④よりやや明るい色。

6．黒　色　土．多量のＣ軽石を含む、少量のＦ軽石を含む、
やや粘性を帯びる。

7．黒褐色土．少量のＣ軽石、ローム粒、灰色土粒を含む、粘性
を帯びる。

8
9
10
11
12



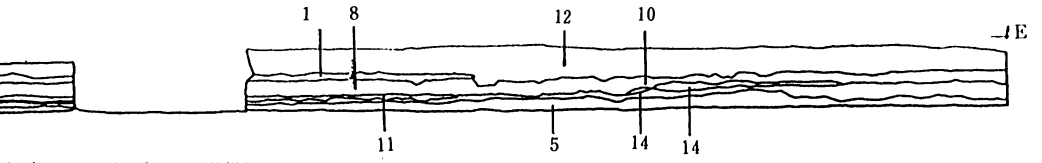
1．茶褐色土．耕作土。

2．茶褐色土．少量のＣ軽石を含む、
黒色土粒を含む、やや砂

3．黒褐色土．多量のＣ軽石を含む、
所もあるが、全体的にか

4．黒褐色土．少量のＣ軽石、茶褐色

5．茶褐色土．少量のＣ軽石、ローム



褐 色 土．少量のC軽石、茶褐色土粒を含む、砂質。

黄褐色土．多量のローム粒を含む、少量のC軽石、黒褐色土粒を含む、砂質を帯びるが、やや粘性の部分もある。

茶褐色土．少量のC軽石、F軽石、黄褐色土粒を含む、砂質。

灰茶褐色土．少量のの黒褐色土粒を含む、やや砂質。

14．黒褐色土．多量のC軽石を含む、少量のF軽石、茶褐色土粒を含む、砂質。

凝集か）が点在

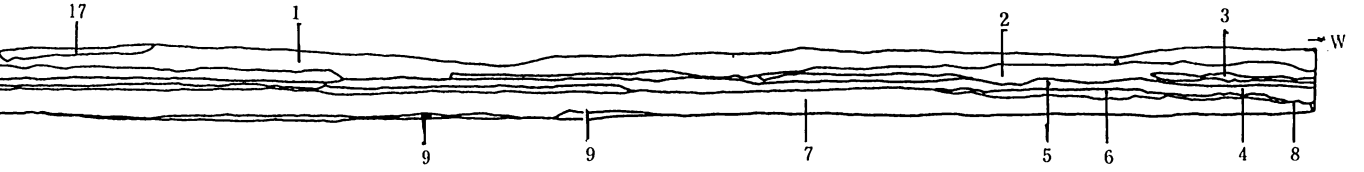
的に黄褐色土粒

凝集か）、焼土粒

4．著褐土．多量の茶褐色土粒（鉄分の凝集か）を含む、少量のC軽石、F軽石、ローム粒を含む、粘性を帯びる。

5．黒褐色土．少量のC軽石、茶褐色土粒（鉄分の凝集か）を含む、粗い砂質。

6．黒褐色土．少量のC軽石、ローム粒、茶褐色土粒（鉄分の凝集か）を含む、多大の粘性を帯びる。



土．少量のC軽石、黄褐色土粒（鉄分の凝集か）を含む、砂質

色土．多量のローム粒を含む、少量のC軽石を含む、粘性を帯びる。

色土．多量のC軽石を含む、少量のF軽石、褐色土粒を含む、砂質。

色土．少量のC軽石、F軽石、ローム粒を含む、砂質。

色土．少量のC軽石、ローム粒、黒褐色土粒を含む、多量の茶褐色土粒（鉄分か）を含む、砂質、所々粘性を帯びた部分もある。

13．茶褐色土．少量の黒褐色土粒を含む、柔らかく、脆い。
14．茶褐色土．多量の黒褐色土粒を含む、柔らかく、脆い。
} 撹乱層

15．黄褐色土、撹乱層

16．黄褐色土、少量のC軽石、F軽石、ローム粒、茶褐色土粒（鉄分か）を含む、粘性を帯び、しまりがある。

17．茶褐色土、所々に明褐色土粒（鉄分か）を含む、砂質。

18．茶褐色土．少量のC軽石、F軽石、黒褐色土粒あり、やや砂質。

褐色土粒（鉄分か）

るが、しまりがある。

軽石、褐色土粒を含む、やや

まっている。 の

む、やや粘性を帯びる。

、粘性を帯びる。

6．黄褐色土．多量のローム粒、黒褐色土粒を含む、少量のC軽石を含む、かたく、しまりがある。

7．黒褐色土．少量のC軽石、F軽石、茶褐色土粒を含む、しまりがある。

8．歴茶褐色土．少量のC軽石、砂粒、黒褐色土粒を含む、やや粘性を帯びる、撹乱されたものか、ビニール袋が出土。

9．灰茶褐色土．少量のC軽石、茶褐色土粒、黒褐色土粒を含む、やや粘性を帯びる、⑧より明るい。

Ⅵ 結 語

本調査対象地の調査前の状況は，開墾によってすべてが水田，畑地，桑畑となっていた。校舎建設に先立って，前述のように確認調査をした結果は，次の通りであった。

(1)A区　水田址の存在を予想したが，それらしいものは検出出来なかった。

(2)B区　A区と同様，遺構の検出は見られなかった。

(3)C区　調査前は一面の桑畑であった。A区，B区ほど開墾が進んでおらず，遺構の存在を予想したが，確たるものは検出出来なかった。西側約150㎡の部分に，黒色を帯びた土壌の広がりが見られたが，遺構には結びつかなかった。

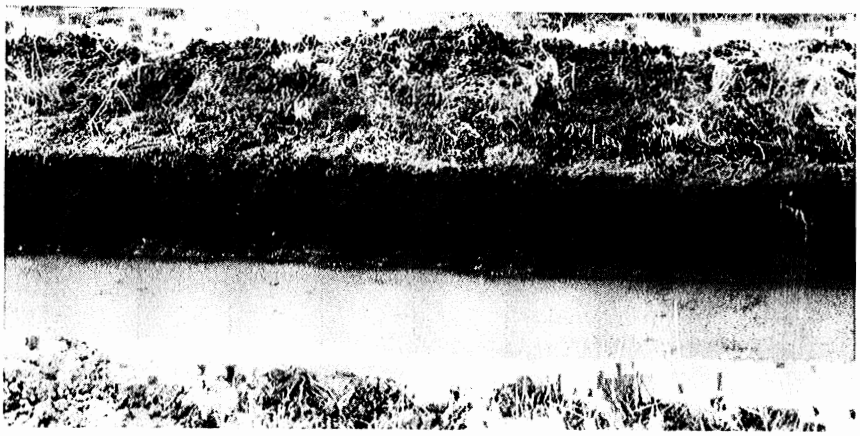
(4)D区　調査中，焼土粒らしきものも検出されたが，確実な遺構の発見には結びつかなかった。

前述のように，本確認調査地周辺には多くの文化財的遺産が見られる。広瀬川沿岸の段丘上には，かつて百数十基に及ぶ大，小古墳が存在したし，上毛野君の一族の朝倉君も当所に拠ったと思われる。又，古代国家のもとでの土地区画である『条里制』の存在も，研究者によって指摘されてきた。このような状態を鑑みて，確認調査を実施したのであったが，確たる遺構の検出には結びつかなかった。ただし，同地より約250m東の地点で，前橋市埋蔵文化財発掘調査団による，後閑団地造成に先立っての発掘調査が行われ，石田川期から国分期にかけてのものと思われる住居跡等が検出されている。

作　業　風　景

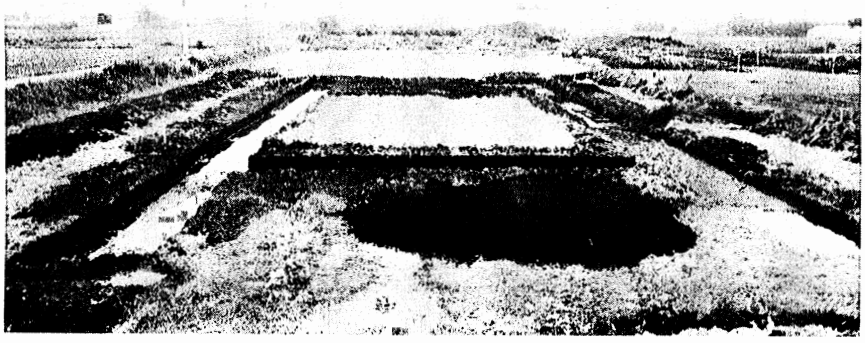
図　版

A　区



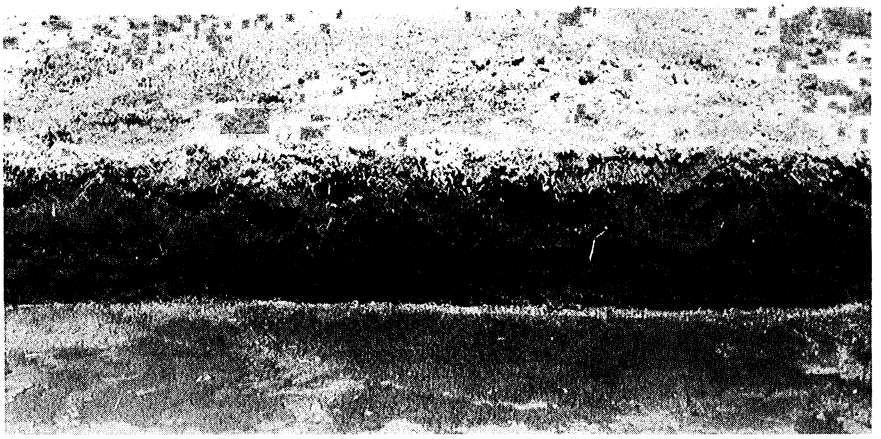
東西地層断面・第２トレンチ

南北地層断面・第３トレンチ

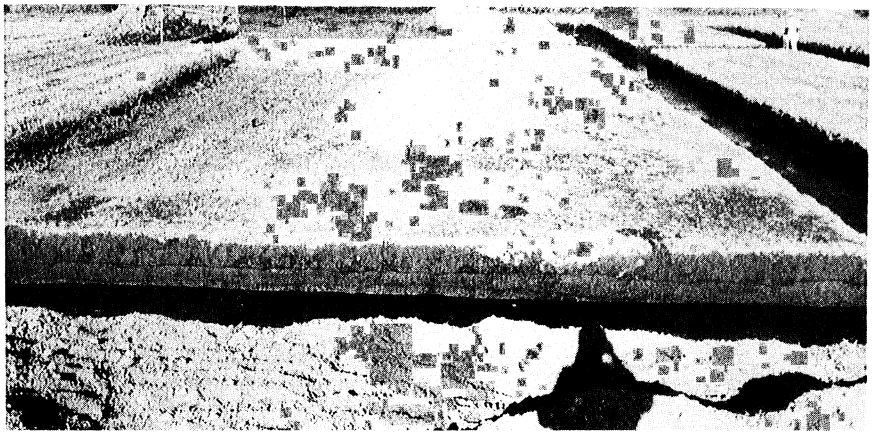


ト　レ　ン　チ　全　景

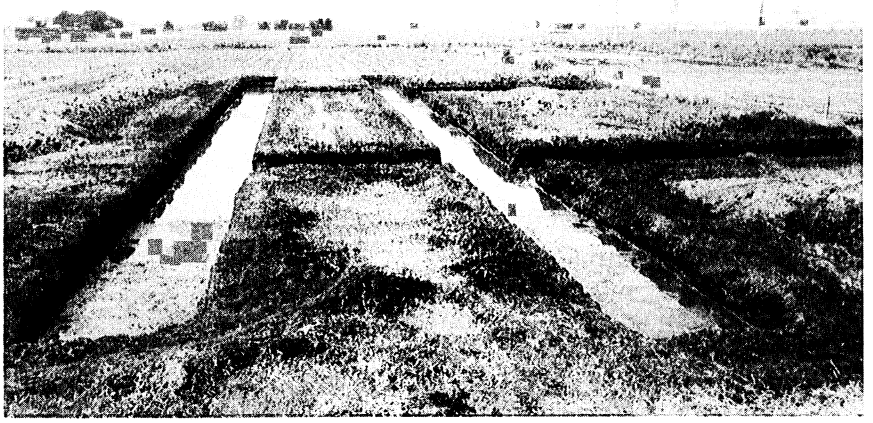
B 区



東西地層断面・第1トレンチ

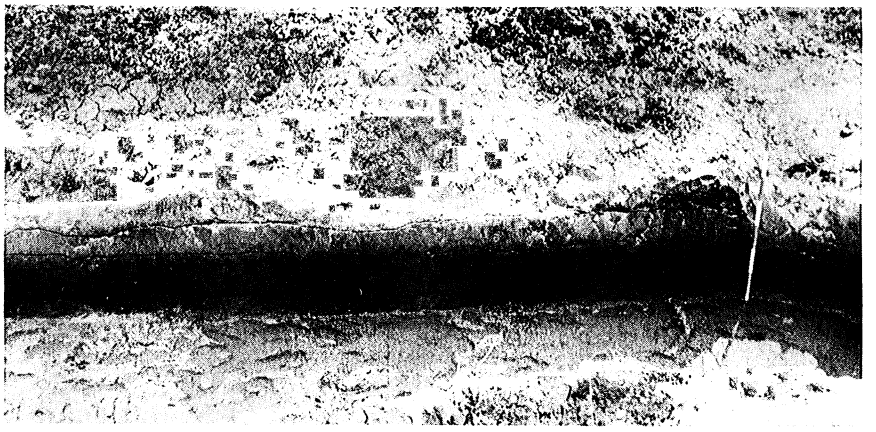


南北地層断面・第3トレンチ

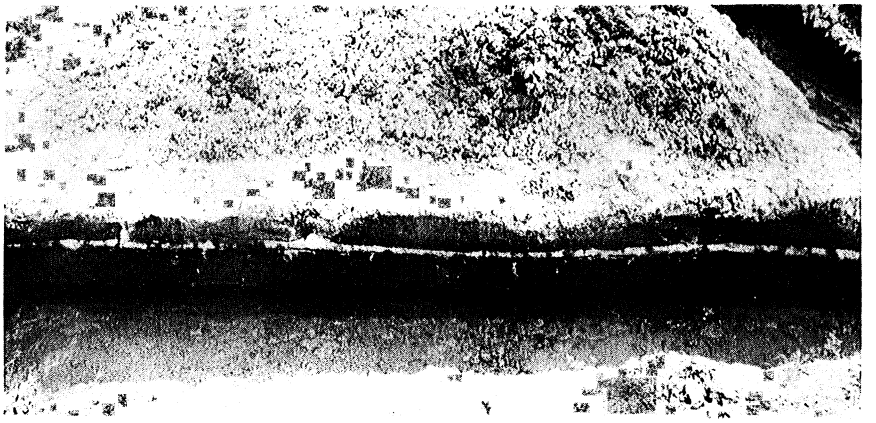


トレンチ全景

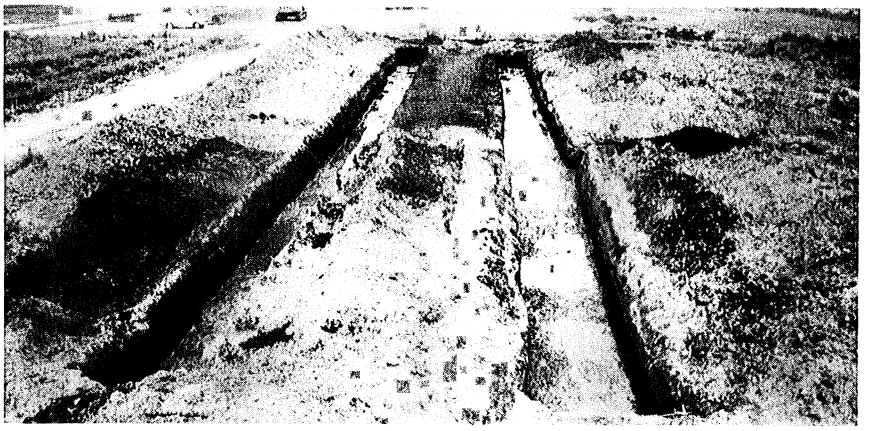
C　区



東西地層断面・第２トレンチ



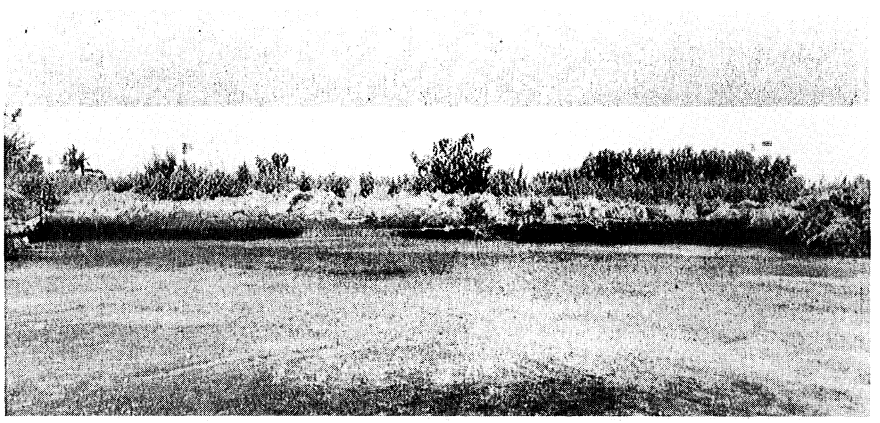
南北地層断面・第３トレンチ



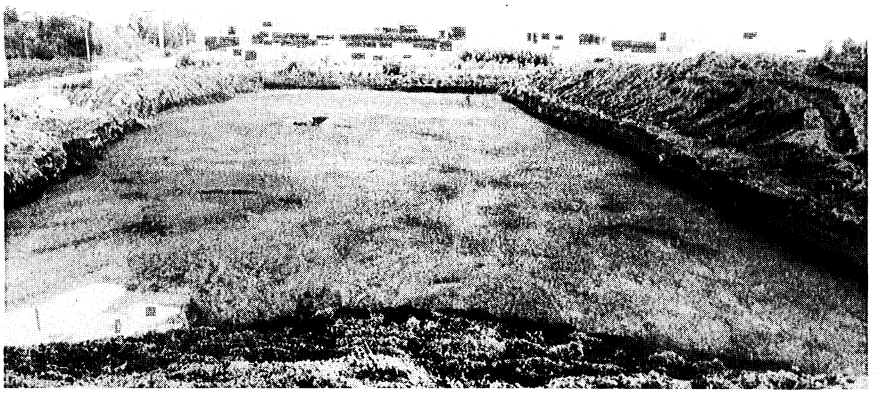
ト　レ　ン　チ　全　景

D 区

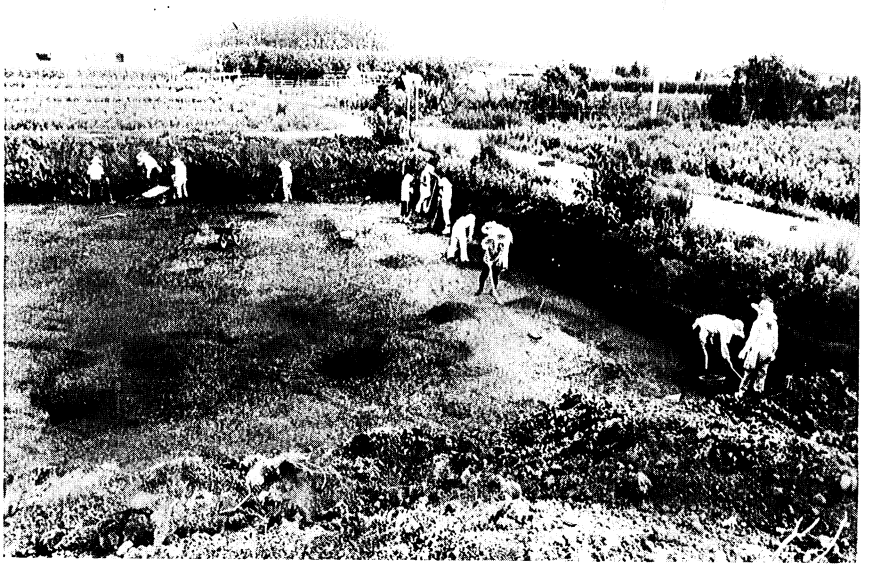
ノ 東西地層断面



南北地層断面



全　　景



調査地より八幡山古墳を望む

後　閑　遺　跡

昭和58年３月31日　印刷
昭和58年３月31日　発行

発　行　前橋市教育委員会
前橋市大手町二丁目12番１号

印　刷　前橋市大手町三丁目６番11号
有限会社　原　田　印　刷　所